山口県山口市　西の京　やまぐち

第１回山口市景観賞「山口市景観写真コンテスト」受賞作品

山口のまちなみは、１４世紀中頃（南北朝時代）、大内氏第２４代大内弘世（おおうちひろよ）が本拠地に定め、京を模してまちづくりを行ったことをその礎とします。大内氏は日明貿易で大いに栄え、また、室町幕府や朝廷との関わりも深く、応仁の乱以降には乱を逃れた多くの文化人を庇護したことから、山口は「西の京」と称されるほど繁栄すると共に、京の文化と大陸の文化を融合した絢爛（けんらん）たる「大内文化」が華開きました。

その後の戦乱により大内氏は滅亡しましたが、毛利氏の治世下、江戸時代以降も山口は萩往還や石州街道の交わる交通の要衝であり、幕末には萩から藩庁が移されたことで、明治維新においても重要な役割を果たしています。

大内氏が居を構えた大内氏館跡を中心とする「大殿（おおどの）」地域は、瑠璃光寺五重塔、龍福寺本堂等大内氏の栄華を伝える建造物、十朋亭や菜香亭など維新志士の活躍を現在に記す史跡や施設、室町時代の町割を残す路地等多くの歴史的なまちなみを残しています。

特に、大内弘世が京の鴨川に見立てた一の坂川の周辺地区は、景観法に基づく景観形成重点地区に指定しており、春は桜、初夏は蛍の名所として、多くの市民に親しまれています。

春の一の坂川

一の坂川のまちなみ

周辺の歴史・文化的景観

瑠璃光寺五重塔

第１回山口市景観賞「山口市景観写真コンテスト」受賞作品

室町時代、大内氏第２６代大内盛見（もりはる）が兄・義弘の菩提を弔うために建立したとされており、国宝に指定されています。

全国に現存する屋外の五重塔のうちで１０番目に古く、その美しさは日本三名塔の一つに数えられます。季節によって変化する風景や夜のライトアップで映し出される幻想的な光景もお楽しみください。

龍福寺本堂

龍福寺本堂は室町時代に建立された建物で、国の重要文化財に指定されています。明治１４年にそれまでの本堂が火災で焼失したことから、明治１６年に大内氏の氏寺興隆寺の釈迦堂を移築したものが現在の本堂です。

平成１７年から平成２４年にかけて保存修理が行われ、檜皮葺（ひわだぶき）の屋根が復原されました。

また、参道は紅葉の名所で、秋には鮮やかに色づきます。

山口県山口市